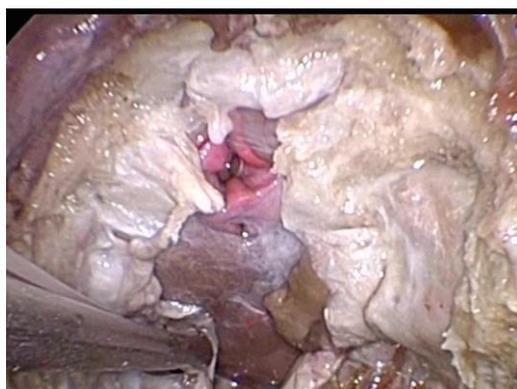
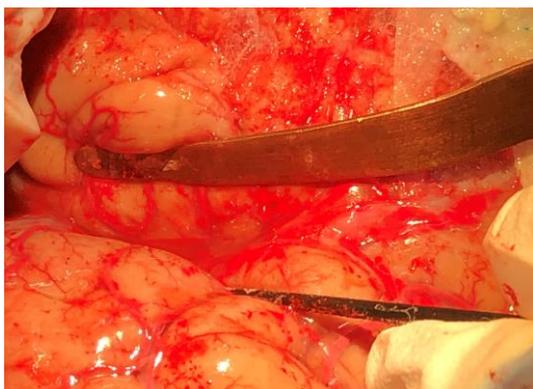


補助事業番号 2020M-112

2020年度 JKA財団支援による研究の概要

頭蓋底手術という難易度の高い手術に対し、強力な頭蓋底閉鎖機能を持つ医療材料開発が期待されています。2020年度にJKA財団の支援の下、まずは医療機器開発に適した脳の硬度適正化・血管の視認性を向上させた遺体保存・染色方法を検討し、一定の成果を得ることが出来ました。これまでの保存法では、硬すぎたり、柔らかすぎて実際の生体脳と異なり、医療機器開発に不向きでした。本研究で、生体脳に近い感触で手術シミュレーションや医療機器開発に応用可能となりました。

(本研究は学内の倫理委員会の審査を経て行っています。)



*** 血管の視認性、脳の硬度が適切となり、頭蓋底手術の模擬手術を精度が向上
(写真左：開頭による脳外科模擬手術) (写真右：内視鏡による脳外科模擬手術)**

今後は、保存方法にさらに改良を加え、安全・確実な医療機器開発に応用可能な体制を整えていくことが課題となります。